

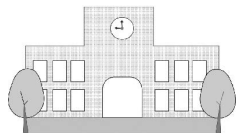
貸借対照表

貸借対照表とは、会計年度末の町の保有している資産（表の左側）と、その資産がどのような財源（表の右側）でまかなわれているのかを一目で分かるようにした財務書類です。

資産の部 (これまで積み上げてきた資産)

【固定資産】

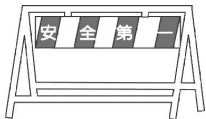
●事業用の資産



108
億円

土地・建物・立木など

●産業や生活の基盤となる資産



179
億円

道路・橋梁・水道など

【金融資産】

●資金



4.2
億円

●その他



37.8
億円

基金・貸付金など

資産の
合計

329
億円

負債の部 (将来負担する額)

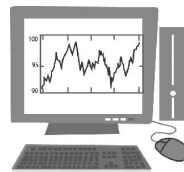
【地方債】



64
億円

資産の取得などにした借金

【その他】



9
億円

リースしている資産に対する支払残高や職員に対する手当などの支払予定額など

純資産の部 (町の正味財産)

256
億円

資産から負債を引いた額

負債及び
純資産の
合計

329
億円

矢印の金額は一致します。
▲はマイナスを表します。

財務分析

財務書類の分析には、さまざまな比率がありますが、主なものを公表いたします。

①純資産比率 78%

総資産に占める純資産の割合で、将来世代にも利用可能な資産を残したことになります。

②負債比率 29%

純資産に対する負債の割合を表し、この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

③基礎的財政収支 ▲1.3億円

資金収支計算書の「経常的な経費に係る収支」と「資本的な経費に係る収支」の合計で、収支が均衡している場合は、持続可能な財政運営であるといえます。

④住民一人当たりの資産、負債、純経常費用

資産	1,046万円
負債	205万円
純経常費用	123万円

⑤社会資本形成の世代間比率 15%

現在整備されている社会資本（土地、建物、道路など）を、地方債などの負債によってどのくらい調達したかを示す比率です。この比率が低いほど将来世代への負担が残らないことを表し、財政状況が健全であるといえます。